

令和 6 年度 第 2 回 日野市男女平等推進委員会 要点録	
日 時	令和 6 年12月 18日(水) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
場 所	多摩平の森ふれあい館 集会室 3-1、3-2
出席者	寺田委員、林委員、橋本委員、飯田委員、本間委員、山田委員、瀧澤委員、清水委員 事務局、(株)名豊 大川氏(オンライン)
欠席者	田中委員、野原委員
次 第	1 報告 (1)第 4 次日野市男女平等行動計画 3 か年(令和 3 年度から 5 年度)の評価結果 総括及び課題について【冊子、資料 1】 (2)男女平等に関する市民意識アンケート結果について【資料 2】 2 議題 (1)第5次日野市男女平等行動計画策定における課題について【資料 3、4】
配布資料	・【冊子】令和 6 年度日野市男女平等行動計画評価報告書(令和 5 年度施策・事業を 評価) ・【資料 1】第 4 次日野市男女平等行動計画 3 か年(令和 3 年度から 5 年度)の評価 結果 総括と課題 ・【資料 2】日野市男女平等についての市民アンケート調査結果報告書 概要版 ・【資料 3】体系・骨子の検討 ・【資料 4】課題シート ・【別紙 1】策定スケジュール(2024.12 変更)
開会	司会より会議に先立つ確認。 第5次計画策定の4つのポイント・目標設定について説明。
質疑・意見	全委員異議なし。
次 第 1- (1)	第 4 次日野市男女平等行動計画 3 か年(令和 3 年度から 5 年度)の評価結果 総括 及び課題について【資料1】、【冊子】 事務局より説明。
質疑・意見	【質問】<瀧澤委員> 資料1の3ページ、施策No.Ⅲ-2-1「家庭における男女の役割分担意識」の解消につ いて、達成とされているが、そうは思えない。実際に母親からの意見はしっかりと読 み取れているのか。 【回答】<事務局> 家庭における夫婦の意識ではなく、主管課が立てた目標に沿って事業が実施でき たかどうかの評価であるので、家庭の実情と評価点では誤差が出てしまうものであ る。そういった部分を補完するため、市民意識アンケートを実施し、そこから見えた課 題も勘案して次期計画を策定していきたい。 【質問】<瀧澤委員> 資料1の3ページ、施策No.Ⅲ-2-3「子育て支援策の充実」について市内地域差もあ

ると思うが、多数入園希望園を記入して申請しても落ちてしまったという声を聞いた。今後の市としての改善策は。

【回答】＜事務局＞

資料1の3ページ、事業No.44「待機児童の解消」における担当課評価点は2.0で目標を達成できなかったとなっている。待機児童が前年度より微増している現状については課題として把握している。

【質問】＜瀧澤委員＞

資料1の1ページ、事業No.13「性と生殖に関する健康と権利についての情報提供」について、実際はもっと低いと考えるがどうか。

【回答】＜事務局＞

担当課の立てた目標に沿って事業が実施できたかの評価は高くなっているが、日本では性教育の遅れが課題としてあり、日野市でもどのように進めていくのかも課題であると認識している。

【意見】＜寺田委員＞

評価の仕方として、各年の点数の推移を見て、例えば先ほどの事業No.44「待機児童の解消」についても、令和4年度は5だったけれど令和5年度は2ということで、揺れ動きがある。その点が大事なのではないかと思う。

【回答】＜事務局＞

評価方法について参考にさせていただきたい。

【質問】＜林委員＞

資料1について、目標Ⅲと目標Ⅳでは、総括として評価点が4.0未満のものについてそれぞれ施策を取り上げているが、目標Ⅰは4.0未満のものが二つあるにも関わらずそれを特に特筆せず、また課題として掲げていない。同様に課題として取り上げたらどうか。

【回答】＜事務局＞

資料の表記が統一できていなかったため、分かりにくさがあった部分についてはお詫び申し上げます。

目標Ⅰについても4.0未満の施策があったことは承知しており、課題認識はしている。

【質問】＜林委員＞

資料1について、平和と人権課の立場が、男女平等施策の旗振り役だとすれば全体を包括するような取り組みを考えているのか確認したい。

【回答】＜事務局＞

評価結果は担当課にフィードバックしている。特に評価点が低かったものについては、翌年度の目標設定時に改善してもらうよう伝えている。また、市役所内で男女平

	等を推進するための男女平等推進本部会議という会議においても、評価結果を報告し改善をお願いしている。 なかなか評価点が上がらない事業については検討しなくてはいけない課題があると思われるため、第5次計画でも引き続きフォローアップしていく必要があると認識している。 【意見】＜飯田委員＞ 例えば事業No.44「待機児童の解消」のように数字として評価が出しやすい事業もあれば、数値で出しにくい事業もある。数値で表しにくいものについては評価の根拠が曖昧ではないのか。 【回答】＜事務局＞ 第5次計画策定後は評価の仕方を継承していくのかどうか、課題であると認識している。
次第 1-(2)	男女平等に関する市民意識アンケート結果について【資料 2】 (株)名豊 大川氏より説明。
質疑・意見	【質問】＜本間委員＞ 資料2の5ページ、ハラスメントに関する設問について、いわゆるマタハラを受けたことがあるという数字自体は少ないが、アンケートの回答者全員が該当するわけではない。年代別のデータがあれば教えていただきたい。 【回答】＜(株)名豊 大川氏＞ 性年齢別のクロス集計を実施しており、女性の 40～49 歳で 14.0%、30～39 歳で 12.0%、この2つの階層が 10%を超え、回答割合が多くなっている。 【意見】＜本間委員＞ 全く違う数字が実態ということで、見せ方を工夫していただきたい。 【回答】＜事務局＞ 同じことが性的指向性自認に関するハラスメントにも言える。クロス集計の結果なども踏まえて、計画の中に反映させていきたい。 【質問】＜林委員＞ 資料2は概要版だが、詳細版を我々委員が拝見できる機会はあるのか。 【回答】＜事務局＞ ホームページ上でも公開し冊子版も作成する予定なので、郵送や次回委員会時に配布など、委員には何らかの形でご提供したいと考える。 【質問】＜林委員＞ アンケート回収率は前回よりも下がったと理解している。また、アンケートに回答いただいた方はこの分野に関心が高く、関心が低い方に回答いただけなかったという印象を持っている。アンケートに参加されなかった方の属性は把握しているのか。 【回答】＜(株)名豊 大川氏＞

	属性が無回答の方もいるので確定では分からないが、近似値としては把握できる。 【回答】＜事務局＞ (株)名豊と確認し、次回資料として提供できるものがあればお示ししたい。 【意見】＜林委員＞ 属性で見ると 10 代 20 代の回答が少なかったとあるが、10 代に属する 18 歳 19 歳は Web を通じての回答が、回答しやすく良かったのではないかと印象を受けた。 【回答】＜事務局＞ 今回は Web での回答も確保したことで、若年層も回答しやすい形がとれ良かった。 【意見】＜寺田委員＞ 資料2の7ページ、平日における育児に関わっていない男性の割合については、子供の月齢・年齢によって、変化するものだと思う。子の年齢による差なども見ることができれば、より実態に沿うものになると思う。 【回答】＜事務局＞ 参考にさせていただきたい。 【意見】＜瀧澤委員＞ 資料2の7ページ、「平日における育児に関わっていない男性の割合」について、家にいる時間は短いのに育児をしているという男性はいる。育児に関わる時間だけを見て鵜呑みにすると全くやっていないと思われるが、そうではないという実態もあることを知っていただきたい。勤務時間がもう少し短くなるとよい。 【回答】＜事務局＞ 参考にさせていただきたい。
次第 2-(1)	第5次日野市男女平等行動計画策定における課題について【資料3、4】 (株)名豊 大川氏より説明 まず、基本目標1、2について説明。
質疑・意見	【質問】＜清水委員＞ 第4次と第5次でどう違うのか、見やすくしてほしい。第5次は第4次を踏まえて何が違うのか、資料を整えてほしい。 【回答】＜事務局＞ 資料4に「体系見直しの要素」があり、国の方針、東京都の総合計画、日野市の課題を加味して第5次計画を作っていくという流れになっている。ご意見をいただいてこれからさらにつくっていききたい。 【質問】＜林委員＞

資料3について、日野市の課題として記載のあるものは、市民意識アンケート調査結果や行動計画評価結果の内容も盛り込まれているということで、今後増減はないのか。

【回答】＜事務局＞

現在記載されている課題はアンケート結果を踏まえたたたき台であり、後日、委員からいただいた意見を踏まえさらにアップデートしていく。

【意見】＜橋本委員＞

資料3の基本目標2で使われている「デートDV」という言葉について、アンケート結果でも数字が低かった。今関心が出てきているデジタル性暴力の問題についても加えていただきたい。命の安全教育だけでは不十分だと思うので、包括的性教育の方向で考えてほしい。

【回答】＜事務局＞

目標設定等の参考にさせていただきたい。

【意見】＜橋本委員＞

資料4基本目標Ⅰ生涯を通じた心と体の健康作りの支援について、「女性の思春期、妊娠・出産期・更年期」とあるが、避妊と中絶についても入れるべきである。

【回答】＜事務局＞

現在、リプロダクティブヘルス／ライツの取り組みをするということが条例にも明記されている。また、プレコンセプションケアに関する啓発について関係部署と連携を模索している。リプロダクティブヘルス／ライツの取り組みとして、検討していきたい。

【意見】＜橋本委員＞

先進的な取り組みをしている自治体では、男女平等推進センターが中心になって、取り組みを始めている。地方自治体でできることはたくさんあると思う。

【回答】＜事務局＞

参考にさせていただきたい。

【意見】＜本間委員＞

例えば「アフターピル」という言葉など、若者にも入ってきやすい、時代に合わせたキーワードも取り入れた方がより具体的なものになると感じた。

【回答】＜事務局＞

参考にさせていただきたい。

【質問】＜飯田委員＞

資料3の新たに加える視点「男性が家庭での責任を果たすための支援」について、どのような支援を考えているのか。

【回答】＜事務局＞

	ワーク・ライフ・バランスの推進を目標として取り組んでいくことを想定している。 【質問】<飯田委員> 「男性が家庭での責任を果たすための支援」となると言葉としてとらえにくい。 【回答】<(株)名豊 大川氏> アンケート調査結果「家庭における男女平等観」において、男性では平等感が増加しているが女性ではそうではない。そういった認識の差が大きな課題になっていると考える。
次第 2-(1)	第5次日野市男女平等行動計画策定における課題について【資料3、4】 (株)名豊 大川氏より説明 基本目標3、4について説明。
質疑・意見	【質問】<林委員> 資料4基本目標Ⅰの課題として第4次計画で施策となっていた「多文化共生」についての記述が削除されているが、何か意図や方針があるのか。 また、現行計画の担当課評価の中で人権問題に関する講演会の実施が実績として記載されることがある。人権問題という広い範囲の中で見た時に、多文化共生や外国人なども含まれてくると思うが、今後、人権問題という切り口で見た時に、そういった線引きをどのようにするのか。障害者に対しての配慮や、そのような人権のことについても今後、加わってくる可能性があるのか。 【回答】<事務局> 施策・事業数が膨らみすぎているという課題があり、計画のスリム化を図るため、削除した。男女平等に即したテーマ以外の事業については削除したい考え。計画から削除しても、事業を実施しないわけではない。 人権問題については、法務省が「啓発活動強調事項」として17の人権課題を掲げており、それに沿って年一回啓発事業を計画的に実施している。 障害者等の人権については担当課が個別に計画を策定し事業を展開している。 【意見】<山田委員> 中小企業の社長という視点から。自社でも育休制度を整備しているが、男性の取得が0という現状である。女性が職場で活躍するためにはパートナーとしての男性が育休を取ることが大切だが、制度の認知が進まず、就業規則は整っていても取得しにくい社会情勢だと感じる。そのような課題も盛り込んでいただきたい。 【回答】<事務局> 日野市役所では男性職員の89.5%(令和5年度実績)が育休を取得している。日野市の良い事例としてPRしていき、課題としても計画に盛り込んでいきたい。 【意見】<橋本委員> 男女平等推進センターの認知度について、日野市男女平等推進センター「ふらっと」について、認知度や利用頻度が低いことは大きな問題である。他地域でも直営の場合と指定管理者に委託している場合があり、他施設と連携をとりながら、どうした

	ら上手く運営できるのか考えていただきたい。 【回答】＜事務局＞ センターの役割を見直すのは非常に重要だと考える。他地域と情報共有をしながら、今後の方針について考える必要がある。 【意見】＜本間委員＞ 男女平等推進センターの認知度の低さに驚いた。発信力で頑張ってもらいたい。 また、庁内体制に課題があり推進が難しい状況もあると考えるが、そのことを課題として盛り込むことはできるのか。 【回答】＜事務局＞ 市民アンケートと計画評価から見えてくる課題を洗い出しつくった骨格に基づいて庁内調整をする。現在の体制で推進できるかどうか、できなければ推進体制を強化する必要があるということが課題になると考えられる。目標Ⅳ「男女共同参画の推進体制づくり」は内部の体制を強化していくという目標であり、計画に反映していきたい。 【意見】＜本間委員＞ 資料4の9ページ「次期計画に向けた課題(1)」について、「女性が職業を持つことについて「家族や自分の状況に応じて、就職・転職・離職に柔軟に対応するのがよい」が60.3%と最も高く」とあるが、冒頭に「女性が」とあるのは危険だと考える。家族で何かに対応しなければならない際に女性に対応するという大前提になってしまうので工夫が必要。 【回答】＜(株)名豊 大川氏＞ 「家族や自分の状況に応じて、就職・転職・離職に柔軟に対応するのがよい」と答えたのは女性(57.4%)よりも男性(64.6%)が多い。また「結婚や出産に関わらず、ずっと職業を続ける方がよい」は男性(14.7%)よりも女性(22.3%)が多い。家族や家庭の状況で働き方を変えるのは女性であるという意識が根底にあるのはご指摘の通りだと感じる。 【意見】＜瀧澤委員＞ 男性配偶者のことを主人と呼ぶのではなく夫と呼ぶ、男性が育児を「手伝う」という表現をしないなど、この委員会メンバーだけでも意識改革をお願いしたい。 【回答】＜事務局＞ 発言の際は気を付けるよう意識したい。
その他	＜事務局より＞ 計画体系図案の作成方法、課題に関する追加の意見聴取について説明(追加意見の提出は1月10日(金)締め切り)。 また、計画策定スケジュールの変更について別紙1に沿って説明。
次回	＜事務局より説明＞

	日 時:令和7年 2 月 19日(水) 18:30～ 会 場:多摩平の森ふれあい館 集会室 3-1・2 次回の委員会は上記の日程となる。 開催日近くになったら、事務局よりメールにて詳細を連絡。
--	--